れば一萬石を分與すべく命ぜられた。因りて十八年一萬石を孝貞に返し、正保二年光高逝去の時出家してその領知七千石をまた孝貞に讓り、己は高野山に登りて涼心と稱した。後亦松濤軒了心と改稱し、武州に行き母祖心と共に居り、遂に元祿六年八月八十二歲にて歿した。 ↓ソシン 祖心。

マヘダナホノブ 前田直信 加賀藩の老臣前田直之系の第十代。直良の子。天保十二年閏正月五日出生。通稱三左衛門。安政三年四月八日直會の後を襲ぎ、世祿一萬千石を受け、十二月十六日從五位下土佐守に叙任し、明治維新の政變に遭ひ、十二年九月十五日三十九歲を以て歿した。法號靜安寺、野田山に葬る。

マヘダナホハル 前田直玄 加賀藩臣。通稱七郎兵衛。實は今枝民部の七子。元和六年三歲で、前田利常の命によつて、利家の女高源院の嗣となり、その化粧田二百五十石を受け、後屢祿を增して二千三百石（內五百石與力知）を食み、人持組に列し、寛文九年八月歿。子孫世々相襲ぐ。

マヘダナホヒデ 前田直英 加賀藩臣。通稱左京・五郎左衛門・大學。家譜には諱を直央に作る。土佐守直躬の六子。天明五年御奏者番となり、七年新知千石を受け、前田齊敬附御用・再奏者番を經、寛政七年若年寄に任じ、九年五百石を加へ、文化元年職を罷め、七年歿した。

マヘダナホマサ 前田直正 加賀藩の老臣前田長種系の第三代直知の嫡男。慶長十年出生。初名左兵衛、後對馬。父直知の致仕した時六千五百石の配分を受け、嗣いで弟直成が町野長門守吉和（一作幸和）の義子となるを以てその祿千五百石を併せ、寛永七年直知の歿するに及んで二千石を襲ぎ、八年祖父長種の一萬千石を受けて、合計二萬千石を領した。因つて直正は、三千石を弟權佐恒知、千石を同姓八兵衛長政に頒ち、自ら殘餘の一萬七千石を有したが、閏十月十七日江戸に歿した。享年廿七。法號清蓮院無徹源心居士。江戸慶高寺に葬る。

マヘダナホミ 前田直躬 加賀藩の老臣前田直之系の第四代。直堅の二男。正德四年三月出生。通稱主稅。享保十年八月新知二千五百石を賜はり、十四年閏九月七日父の遺知一萬千石を襲ぎ、十六年十二月廿三日從五位下土佐守に任ぜられ、安永三年四月三日六十一歲を以て歿した。法號超宗院、野田山に葬られた。その著に鼎寶雜記・言誕集等がある。

マヘダナホヤス 前田直養 加賀藩の老臣前田直方の二子で嫡男。安永元年十二月出生。通稱內匠助。寛政十年七月六日新知二千五百石を受け、文化二年五月廿九日三十四歲を以て父に先だちて歿した。法號孝順院、野田山に葬る。

マヘダナホヤス 前田直養 加賀藩臣。初諱長德・長尙。通稱伴四郎・次郎右衛門・源五左衛門。元文三年俸千二十石を襲ぎ、大小將に班し、寛保三年御算用場橫目、延享三年表小將橫目より次第に昇進して御馬廻頭に至り、寶曆五年銀札奉行となり、六年四月指除かれ、十年二月二十二日六十六歲で歿した。

マヘダナホユキ 前田直之 加賀藩の老臣前田氏の家祖。前田利家の次男利政の嫡子。慶長九年三月京師に生まる。通稱肥後・三左衛門。初諱利直・政之。十一年祖母芳春院に鞠育せられ、元和元年十一月十三日利常に仕へて祿千石を受け、三年增して七千五百石餘に進み、寛永十二年八月一萬五千石となつた。延寶二年十月十八日小松に歿、享年七十一。法號長安寺、野田山に葬る。

マヘダナホヨシ 前田直良 加賀藩の老臣前田直之系の第七代。直時の嫡男。文政三年十月出生。通稱內匠。十一年十月六日家祿一萬千石を襲ぎ、天保十四年十二月廿七日從五位下近江守に任ぜられ、嘉永四年四月六日三十二歲で江戸に歿した。法名本學院、野田山に葬る。

マヘダナリナガ 前田齊廣 加賀藩主第十二代。前田重敎の二男、母は貞琳院。天明二年七月廿八日金澤に生まる。幼名龜萬千。寛政八年十月廿九日出府、十一月十五日叔父治脩の養子となり、十二月三日名を勝丸と改め、同日また犬千代と改め、翌四日又左衛門利厚と稱した。九年二月九日正四位下左近衛權少將兼筑前守に叙任、德川家齊の偏諱を賜うて齊廣と稱し、享和二年三月九日治脩致仕の後を承けて家督を相續し、同月十一日加賀守となり、六月十三日左近衛權中將に陞り、文政五年十一月廿一日致仕を許されて肥前守と稱した。七年七月十日金澤に卒、十二日發喪、享年四十三。法號金龍院文古雲遊大居士、野田山に葬る。

マヘダナリヤス 前田齊泰 加賀藩主第十三代。前田齊廣の嫡男、母は榮操院。幼名勝千代。文化八年七月十日金澤に生まる。文政五年八月初めて江戸に出で、同月廿八日勝丸、同日犬千代、廿九日又左衛門利候（ヨシ）と稱し、十月四日正四位下左近衛權少將兼若狹守に叙任、將軍德川家齊の偏諱を賜うて齊泰と改めた。十一月廿一日齊廣の致仕に及び家督相續を命ぜられ、同日加賀守と稱し、十二月十六日左近衛權中將に轉じ、天保二年十二月朔日參議に任じ、中將故の如くであつた。次いで十年十二月朔日從三位に叙し、安政二年十二月十五日權中納言に轉じ、元治元年五月十三日正三位に陞り、慶應二年四月四日致仕して肥前守といひ、加賀中納言を改めて金澤中納言と稱したが、明治元年三月廿二日重ねて加賀中納言に復した。四年九月東京に移住し、十三年五月十八日從二位に、十七年一月十五日正二位に陞り、同月十六日薨じた。享年七十四。溫敬公と諡し、東京日暮里に葬る。齊泰には梅皐・後凋・三華翁・棄世道人・球外道人等の號がある。

マヘダノブアキラ 前田誠明 加賀藩臣。通稱藏人・左京。七日市藩主第二代前田利意の五男。前田綱紀に仕へて祿三千石（內千石與力知）を受け、後五百石を加へ、享保元年若年寄に任じ、八年五月六日歿。子孫相繼いで藩に仕へる。誠明、字は似閑。人となり風流、常にその空知閣に端座して沈吟し、格調老蒼一種の氣味を帶びた詩を作つた。

マヘダノブナリ 前田信成 大聖寺藩主第四代前田利章の次子。享保十九年正月廿三日大聖寺に生まれた。通稱常五郎、後民部・中務、初諱利學。寶曆十一年請うて藩臣の班に下り、家老上席に列し、安永五年十月朔日四十三歲を以て歿した。法號太一院。信成、大幸清方を師として學び、專ら孝悌雅睦を主とし、傍武技を好んで劒槍弓馬皆その妙を得た。その著に太一遺稿がある。